

宮崎西警察署（仮称）庁舎建設に係る設計業務 プロポーザル審査経過及び講評について

宮崎西警察署（仮称）庁舎建設に係る 警察本部建築設計業務プロポーザル選定委員会

1 審査経過

(1) 第1回選定委員会（評価テーマ、評価基準及び評価要領等の決定）

令和7年6月25日に開催した第1回選定委員会において、「警察庁舎として必要な機能の確保」、「警察庁舎としての基本的性能の確保」、「周辺地域と調和した景観の創出」の3つの技術提案のテーマのほか、評価基準及び評価要領等について検討を行い、決定した。

なお、同年7月14日に公募型プロポーザルによる手続開始の公告を行い、本業務について技術提案書の提出を希望する者の公募を行った。

(2) 第2回選定委員会（一次審査）

同年8月18日に開催した第2回選定委員会において、公募の結果、参加申込書を提出した者のうち、参加資格要件を満たした4者の参加申込書について、評価要領に基づき、「配置予定技術者の資格」、「配置予定技術者の技術力」及び「担当チームによる業務実施方針及び手法」を評価し、技術提案書を求める者を3者選定した。

(3) 第3回選定委員会（二次審査）

同年9月22日に開催した第3回選定委員会において、提出された3者の技術提案書についてプレゼンテーション及びヒアリングを実施した上で、「参考見積書」、「評価テーマに対する技術提案」及び「担当チームの対応力」を評価要領に基づき評価し、一次審査の評価点と合計した得点が最も高かったB者を最優秀者（委託候補者）に、次点のC者を優秀者に選定した。

2 審査結果

参加申込書提出者	一次審査(50点)	二次審査(150点)	合計 (200点)	順位等
A者	21.60点	—	—	
B者	36.90点	104.25点	141.15点	最優秀者
C者	38.40点	88.75点	127.15点	優秀者
D者	36.45点	90.00点	126.45点	

3 講評

3つの評価テーマについて、短い期間で条件等をよく理解し、大変真摯かつ質の高い技術提案を頂いた。審査委員一同、その取組姿勢に心から敬意を表する次第である。

どの提案者も豊富な設計実績を有するものであり、提案書のレベルは総じて高く、プレゼンテーションは創意工夫し分かりやすくまとめており、ヒアリング時の審査委員からの質疑に対する回答についても懇切丁寧に業務に対する真剣さが伝わってくるものであり、甲乙付けがたいものであった。以下、二次審査において技術提案書を提出した各者の評価を記す。

(1) B者

配置予定技術者の資格及び技術力は申し分なく、安心して設計を任せることができると感じる体制で臨んでいた。

提案では、災害発生時に直ちに機能する防災活動拠点に着目し、具体的にインフラバックアップに言及するとともに、国富町運動公園からの景観への配慮や同公園と調和する計画など、自然環境への配慮に着目した点は評価された。ZEB Readyへつながる取組とライフサイクルコストの縮減についても、より具体的かつ分かりやすい提案であった。

また、本庁舎と附属棟の間隔にやや課題があると感じられたものの、当方が基本構想で示した以上に、建設地周辺の近隣住民に圧迫感を与えないような施設位置・配置に加え、本庁舎及び附属棟の高さを最小限に抑える提案は、周辺地域と調和した景観の創出の観点から評価されるものであった。

さらに、ヒアリングにおいて管理技術者が業務全般を把握しつつ答えながらも、必要に応じて他の技術者に説明を促し、当該他の技術者も的確に答えていた点は、事前に入念な打合せ等を行っていたことを窺わせるものであり、担当チームの結束力や対応力の良さが感じられた。

(2) C者

C者についても配置予定技術者の資格及び技術力は申し分なく、安心して設計を任せられることができると感じる体制で臨んでいた。また、提案者の中で唯一、配置予定技術者にCASBEE「Sランク」を取得したものや建築関係業務に係る受賞歴があったことも大いに評価された。

提案では、県産木材の活用に言及するとともに、庁舎の水平庇と木調ルーバーによる躍動感ある外観は斬新さを与えるものであると感じられた。また、渋滞緩和を考え門扉をセットバックする提案は、実際に現地を調査しないと気づけないものであり、本業務に対する熱意や積極性が大いに感じられた。

他方、将来のメンテナンスやコスト等に触れつつ、プレキャスト構造の採用により100年使える高強度、高耐久の躯体を実現するとした提案についても魅力を感じたものの、宮崎県内企業では対応できないおそれがあり、その実現性に関し、県内企業への優先発注を推進している本県の方針にそぐわないことへ懸念する意見があった。

(3) D者

D者についても配置予定技術者の資格及び技術力は申し分なく、安心して設計を任せられることができると感じる体制で臨んでいた。

提案では、災害発生時における防災活動拠点として災害に強い警察庁舎のあり方への提案や女性職員の視点に立った環境整備についての言及があり、働きやすい警察署づくりへの積極性が感じられた。

また、庁舎外観デザインを統一して室内の用途、例えば、留置施設においても外部から目立たないデザインとする点や、ZEB Readyの実現に向けたパッシブデザインやアクティブデザインといった自然エネルギーの活用等の提案は具体的で分かりやすく評価が高いと感じられた。

他方、附属棟のうちの一棟を警察署の出入口付近に屋上緑化の上配置する提案については独創性が高いとは感じられたが、通行人等の目線における景観（当該附属棟の屋上緑化を含む。）や本庁舎からの職員の動線距離、緑化のメンテナンス等に懸念する意見があった。

4 その他

参加説明書において、技術提案書を一定期間公表するとしていたが、警察署庁舎の保安上の理由から公表は差し控える。